



設定の確認と保存

この章では、システム設定の保存方法について説明します。

- [設定の確認 \(1 ページ\)](#)
- [ファイルシステムの同期 \(3 ページ\)](#)
- [設定の保存 \(3 ページ\)](#)

設定の確認

いくつかのコマンドを使用して、機能、サービス、またはシステムの設定を確認できます。多くはその実装において階層型であり、コンフィギュレーションファイル内の一部または特定の行に固有のものもあります。

機能設定

多くの構成では、特定の機能を設定して確認する必要があります。例には、IPアドレスプールの設定が含まれています。次の例を使用して、リストされているコマンドを入力し、機能設定が適切であることを確認します。

IP アドレスプールの設定を表示するには、**show ip pool** コマンドを入力します。このコマンドの出力は、次に示すサンプルのようになります。この例では、すべての IP プールが *isp1* コンテキストで設定されています。

```
context : isp1:
+-----Type:          (P) - Public          (R) - Private
|                     (S) - Static          (E) - Resource
|
|+-----State:       (G) - Good            (D) - Pending Delete      (R)-Resizing
||
||+---Priority:       0..10 (Highest      (0) .. Lowest (10))
||||
||||+---Busyout:     (B) - Busyout configured
|||||
vvvvvv Pool Name          Start Address  Mask/End Address  Used    Avail
-----
PG00 ipsec                12.12.12.0     255.255.255.0    0       254
PG00 pool1               10.10.0.0     255.255.0.0     0       65534
SG00 vpnpool             192.168.1.250  92.168.1.254    0        5
```

Total Pool Count: 5



重要 システムの機能を設定するには、これらの機能専用の **show** コマンドを使用します。詳細については、『*Command Line Interface Reference*』の「*Exec Mode show Commands*」の章を参照してください。

サービス構成

次のコマンドを入力して、サービスの作成と適切な設定がされていることを確認します。

```
show service_type service_name
```

出力は、次に示す例のように、サービスパラメータの設定を簡潔にリストしたものです。この例では、*pgw* という名前の P-GW サービスが設定されています。

```
Service name           : pgw1
Service-Id             : 1
Context                : test1
Status                 : STARTED
Restart Counter        : 8
EGTP Service           : egtpl
LMA Service            : Not defined
Session-Delete-Delay Timer : Enabled
Session-Delete-Delay timeout : 10000(msecs)
PLMN ID List           : MCC: 100, MNC: 99
Newcall Policy         : None
```

コンテキストの設定

show context name name コマンドを入力して、コンテキストが作成されており、正しく設定されていることを確認します。

出力にはアクティブなコンテキストが表示されます。ID は次に示す例と同様になります。この例では、*test1* というコンテキストが設定されています。

```
Context Name      ContextID      State
-----
test1             2                Active
```

システム設定

show configuration コマンドを入力して、設定ファイル全体が作成され、正しく設定されていることを確認します。

このコマンドは、上記で定義したコンテキストとサービス設定を含む設定全体を表示します。

設定エラーの検出

コンフィギュレーションファイルのエラーを特定するには、**show configuration errors** コマンドを入力します。

このコマンドは、設定内でされた検出されたエラーを表示します。たとえば、「service1」という名前のサービスを作成していて、設定の別の部分で「srv1」と入力すると、このエラーが表示されます。

設定の特定のセクションを指定するには、このコマンドを調整する必要があります。次の例に示すように、**section** キーワードを追加し、[help] メニューからセクションを選択します。

```
show configuration errors section ggsn-service
```

または

```
show configuration errors section aaa-config
```

設定にエラーが含まれていない場合は、次のような出力が表示されます。

```
#####  
Displaying Global  
AAA-configuration errors  
#####  
Total 0 error(s) in this section !
```

ファイルシステムの同期

次の Exec モードコマンドを入力して、ローカルファイルシステムを同期します。

```
[local]host_name# filesystem synchronize all
```

filesystem コマンドは複数のキーワードをサポートしており、ファイルシステムの破損を確認および修復したり、ファイルシステムを特定のストレージデバイスと同期したりできます。詳細については、『*Command Line Interface Reference*』の「*Exec Mode Commands*」の章をご覧ください。

設定の保存

次の手順では、Exec モードのルートプロンプトが表示されていることを前提としています。

```
[local]host_name#
```

現在の設定を保存するには、次のコマンドを入力します。

```
save configuration url [ obsolete-encryption | showsecrets | verbose ]  
[ -redundant ] [ -noconfirm ]
```

url は、コンフィギュレーションファイルを保存する場所を指定します。ローカルファイルまたはリモートファイルを参照する場合があります。



重要 次の URL フィールド（ディレクトリ、ファイル名、ユーザ名、パスワード、ホスト、またはポート番号）に文字列を入力する場合は、「/」（スラッシュ）、「:」（コロン）、または「@」（アットマーク）の文字を使用しないでください。



重要 **obsolete-encryption** キーワードおよび **showsecrets** キーワードは、StarOS 19.2 以降の **save configuration** コマンドから削除されました。削除されたキーワードを含むスクリプトまたは設定を実行すると、警告メッセージが生成されます。



(注) このコマンドでは **usb1** キーワードオプションおよび **usb2** キーワードオプションを使用できませんが、このオプションは、デバイスがハイパーバイザを介してサーバに設定されている場合にのみ使用できます。これには、仮想コントローラの作成と使用可能なデバイスの指定が含まれます。

推奨手順は、VPC 設定を外部ネットワークデバイスに保存することです。

上記のコマンドの詳細については、『*Command Line Interface Reference*』の「*Exec Mode Commands*」の章を参照してください。

save configuration /flash/cfgfiles/system.cfg